

恵みと真理のニュース



2016年3月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。

そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。アーメン

私は村の執事から伝道され8歳のとき母と姉と共に教会に通いはじめました。母はその日から40年を超える年月、毎朝礼拝に参席して子供達と家庭福音化のため祈りました。朝ごとに母は三人兄弟の頭を次々と触って祝福祈りました。そして、いつも礼拝が優先である生活をしました。母の信仰を通して希望の祈りに答えてくださって父をはじめ母の家族全てがイエス様を信じるようになりました。

そんな母の信仰を見て育った私ですが、結婚してからは信仰の危機が来しました。旦那の家族がイエス様を信じなくて特に姑が熱心にお寺に通い偶像崇拝をして信仰生活する時に迫害が酷かったです。しかし、しばらくは主日に子供達をつれて家から近い教会に行きましたが、結局やめました。生きる意欲もなくなり無意味な生活をする時に同じアパートで住んでいる勸士から恵みと真理教会に伝道されました。

御言葉と聖霊で充滿な礼拝に参席しながら迫害を乗り越えて以前よりもっと強い信仰を持つようになって、母のように家庭福音化の夢を持って不信家族を伝道し祈りました。ついに旦那の心が開かれ恵みと真理教会の礼拝に参席しました。結婚して9年ぶりのことでした。その後、家で仏像をめぐってお辞儀をすした姑が洗礼を受け、家族をはじめ全ての家族がイエス様を受け入れました。そして家の家族が集まると共に礼拝し平安と幸せな生活をするように神様に祈りました。

神様に感謝を捧げます。子供の頃、私が教会に行くと家族皆が福音化されたのを考えて子供達の友達とそのお母さん達を伝道し始めました。一人二人伝道の実りがあったり区域長の職分を受けて教会と聖徒を支えて熱心に礼拝を捧げました。そうするうちに、二番目の子の友達の母を伝道をするため話をする途中、そのママ友から私の旦那の収入を聞きしました。隠さなくて素直に話したら、がっかりした表情でした。本人はイエス様を信じなくても収入が多くて生活に恵まれている

けどなぜ、イエス様を信じなければならないのかと怒りました。私はこの世の生活は短くて、イエス様を信じると根本的な魂が救われ新しい命を得て永遠な天国で福を享受すると話しました。しかし、全て世のことだけ関心があって私の話は聞かなかったです。

私はもちろんイエスさまを信じるのは世の中で一番の福であることだと知っていましたが、少し心に傷ついて神様に祈りました。“神様、神様を知らない人が逆に私をかわいそうに見ないように財物の福を与えてください。”イエス様を信じるなら私のように神様の福をたくさん受けます。大胆に話すようにしてください。”と祈りました。そのように祈ってまもなく私にも経済的に神様の福をたくさん受けました。良い家に引越しました。契約関係が複雑で人々が買わなかったので相場より安く家を買うように神様が導いてくださいました。そして、旦那が事業を賃貸して運営したため毎月支出があまりにも多かったがこれもまた偶然に安く出た土地を購入して直接事業場の建物を建てて運営することにしてくださいました。人々に思いきり神様のことを話しました。不信者に天国の福音と魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにしてくださいる神様の恵みを尽くして伝えました。

伝道の実りがなくても伝道時間が多ければ多いほど神様は豊かな福を与えてくださいます。旦那がする事業が祝福の通路になるようにしてくださいました。他の人がたいしたものではない品目でも仕事を増やしてくださいり事業が大きくなってくださいました。商店街住宅用地の分譲を受け、そこに4階ビルも建てられるように摂理してくれました。神様が下さった福を考えると涙が止まらなくて今も伝道しようと思っ村の人々を探して伝道をしています。

こんな事もありました。新しく引越した人に出会って昼ごはんを食べながらその方に福音を伝えて自分か体験した神様の恵みと愛を証しました。話が終わってその方がインターネット

一で何か 清訳するものがあるとして二人一緒にしてみることにしました。その方が必ず当たるように夢を持って清訳 申請をして、私はその結果を神様の御心に委ねて祈りました。次の日、結果が出ましたが99:1の競争で私が当選されました。その方が“本当に神様を信じなければならないんですね。”と驚きました。そこでも建物を建てています。私の家族に福を与えて下さり、受けた福で神様に栄光を捧げる時に神様は他の服も与えてくださって大きく神様に栄光を捧げるようにしてください感謝します。

12年前から趣味で絵を描いた私は神様から受けたタレントで区域の区域長と子供達に美術を教えます。区域長が子供達の友達を集めてくださると一週一回無料で美術授業しました。そうしながら、区域長とともにママ友を伝道しました。私に下さったタレントを伝道のため使うと神様は私を西洋画家で活動するようにしてくださいました。画家のマネジメントをしてくれる会社から連絡が来て私に作家活動のためのマネージャーの役割をしてくれと要請し、画廊でも先に連絡が来て、招待展市道するようになりました。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。(マタイの福音書6:33) 御言葉の通り伝道に力を尽くして神様を自慢すると神様が時にことに福を与えてくださいました。私は伝道するときに福音についてよく話せません。祈りも上手ではないです。ただ礼拝の中で当會長牧師が下さる御言葉を覚えて人々に伝え、自分が享受している神聖な喜びを受けた福を自慢します。恐れなく聖霊が下さる大胆さで伝道します。その時ことに神様は私の霊と体に福を与えて下さり。行く所所にまだ神様を知らない人、かわいそうな魂に会えるように祈って福音ニュースを持って伝道します。 私が会う人々が福音を聞いて悔い改めるように切に願ひ祈ります。ハレルヤ!



【信仰コラム】

誠の神様、誠のキリスト教

”...「アテネの人たちよ、あなたがたは、あらゆる点において、すこぶる宗教心に富んでおられると、わたしは見ています。実は、わたしが道を通りながら、あなたがたの拝むいろいろなものを、よく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇もあるのに気がついた。...」(使徒言行録17:22~29)

模造品であっても姿や性能において差がなかったら経済的で実用的な面を重んじる人は強いて本物を選択する理由がないでしょう。しかし、絶対に本物を選ばなければならないことがあります。それは信仰に関することです。似ていることや似て非なることを選択すると致命的な打撃を受けます。引き戻せない永遠な不幸をもたらします。誠の神様と誠のキリスト教に関して、偽りの神と似非キリスト教について調べてみましょう。

第一は、偽りの神と誠の神様に関して調べてみます。どんな時代でも人々は罪の問題と死後世界の問題に対する解決策を模索してきました。そして、この問題の答えは神にあるということを考えました。そうして様々な宗教ができました。宗教によってある程度は問題解決に接近したようであるが、実は、問題解決に役に立ちませんでした。なぜなら神様がどなたであるかを分らないからです。万物は全て神様の被造物です。従って、創造主は御一方だけあります。天地を創造なさった神様以外に何も拝む対象ではありません。被

造物を崇拜する宗教行為をいかなる方法で包装しても偶像崇拜という本質は変わりません。

人間は神様の揭示に頼らなくては誠の神様を知る由もないです。神様は創造なさった万物を通じて御自分を揭示なさいました。しかし、それだけでは完全に分かることができないので聖書を通じて神様御自分を完全に知らせました。聖書にはイエスキリストを通じて罪人を救う神様が揭示されています。聖書を通じて救い主を知り、信じる前までは誰も誠の神様を分かることができません。本質上、神様ではない偽りの神を拝みながら生きていきます。強い宗教心や宗教を信奉することが死後にある生の問題と罪の問題に対する解決に役立つというのを認めない人は迷いの中で抜け出すことができません。イエスキリストを信じて誠の神様に仕える生活は特別です。これを他の宗教のように宗教の枠の中に入れては事実上、適切ではありません。イエスキリストが父である神様に向いて行くただ一つの道であるからです。罪の許しを得るとこしえの命を得る唯一な道です。従って、福音を聞いてイエスキリストを迎え、誠の神様に仕えることは人が一生に経験することの中で最大の事件であり最も福のあることです。

第二は、似非キリスト教と誠のキリスト教に関して調べてみます。

キリスト教は聖書に基盤しています。従って、聖書に対する観念が誤ると彼の信仰は正しい道からはずれます。聖書は神様が揭示なさった御言葉がそのまま記録されている本です。

聖書を記録した予言者達と使徒達は聖霊の感じを受けて記録しました。“また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているのちの木と聖なる都から、とり除かれる。”(ヨハネの揭示録22:19)と記録されています。聖書を自分の趣向の通り添削することがいかに大きな犯罪であり、いかほど恐ろしい刑罰をもたらすことであるかを明白に宣布しています。数多いユダヤ人が救いを得られなかった理由は彼らに聖書がないからではなく聖書の御言葉を自分達が願う通りに解釈しそれに合わせて生活したからです。今日、いわゆるキリスト教人だという人々とまして教会の指導者だという人々の中にもこのような人々があります。イエスキリストの購いなしにも救いを得る道があると話す人は寛大な人ではなく凶悪な人です。聖書の通りに言わずに自分の方式で話す人はキリストのしもべではありません。自分の個性と趣向に合うキリスト教を作るとそれは似非キリスト教です。そのような教理はいかに熱心を尽くして信じて述べ伝えても救いを得ることができません。

聖徒の皆さんはキリストの中で誠の神様に仕えるようになったことと一緒に聖書通りに信じて聖書通りに福音を述べ伝えることを大きな喜びと幸いに扱ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

価値観と価値判断の優先順位



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

価値観や価値判断の優先順位は人の行動を牛耳る要因になります。価値観と言うのは人が自分を含んだ世界やどんな対象に対して持つ評価の根本的な態度や見解です。優先順位とは他の事の先ずに進んだ手順や順番や位置を意味します。聖書は私たちが持たなければならない価値観と価値判断の優先順位を非常に明らかに教えています。

神様のお言葉に符合することは無限な価値があるがお言葉に配置されることは無価値なのです。その人の価値観と価値判断の優先順位が間違えばどのように処身する事になってその結果がどうなるのか聖書でその例をよく見ます。

アダムとエバはサタンの誘うに落ち込んで神様と同一になろうと思って善悪を知る木の実を食べました。その結果で犯罪者になってサタンの支配の下に置かれるようになりしました。そしてエデンから逐出されて呪いが付いて来るようになりしました。アダムとエバが善悪を知る木の実を食べる犯罪を犯したことは価値観が倒れたからです。アダムとエバが神様のお言葉に従順することを最高の価値に思っていたらサタンの誘うに移らなかつたはずで

ヨシュアが導くイスラエル民がヨダン川を渡りました。彼らが占領しなければならない始めの城がジェリコ城でした。イスラエルがジェリコ城を占領するのにあって守らなければならない神様の命令の事項が三種類です。ジェリコ城の中に住む人と獣を皆滅ぼさなさいということとジェリコ城にある品物は私的に取ってはいけないということです。そしてジェリコ城を再建するなど言うのでした。ところでイスラエル民の中で神様の命令に不服して品物を私的に取った事件が発生しました。ヨシュアはジェリコを占領した後アイ城を攻撃することに決心して斥候を送りました。アイ城は海拔800メートルほどの高い山地に位置していました。斥候等が報告するのをアイ城は小さな城であるからイスラエル軍がおお過ぎ行かずに二三千人だけ上がって攻撃した方が良いと言いました。アイ城の住民は万二千人でした。ヨシュアは斥候の言葉の通り三千人だけ送ったらイスラエルがアイ城の前で敗れて36人が殺されました。ヨシュアは悲痛な心情で服を裂いて地に伏せて頭に塵を冒して日暮れまで神様に訴えました。神様がヨシュアに敗北の原因を明らかにしました。イスラエルが罪を犯したからなのに誰かが神様の命令を破って品物を私的に取ったと言いました。くじを選んでからアガンが選ばれました。ヨシュアがアガンを審問したら貴いコート一着と銀二白セゲルと五十セゲルの金を取って自分の帳幕に隠したと自状しました。ヨシュアはアガンを定罪した後処刑させました。アガンは神様が言い付けたお言葉より財物をもっと貴重に思いました。彼の誤った価値観が問題であったことです。

神様が約束したお言葉に最高の価値があるという事実を確信した人の例を挙げます。アブラハムが見せてくれた示しです。

アブラハムがメソポタミアに住んでいる時に神様が彼にこんなにおっしゃいました。“時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」”(創世記12:1~3)。アブラハムが神様のお言葉について行ったしアブラハムがハランを離れ去る時にその年が75歳に数えたと聖書に記録されています。アブラハムは安定した生活基盤を捨てて離れ去りました。なじんだ故郷と親族を置いて離れ去りました。運送手段と道路が劣悪な当時であったから最小限の品物を持って離れ去らなければならなかつたです。旅行の安全を保障受けることができない当時に分らない遠い所に発ちました。ここにアブラハムの価値観がよく現われています。アブラハムには神様が彼に約束したお言葉がなによりも大きい価値がありました。多くのものなどをあきらめるとしても神様のお言葉に従順するのがもっと優れるという価値観が確固でした。アブラハムがガナアンに定着した後戦争を経験する事が発生しました。北方地域の四つの国がケダラオメル王の指揮の下に連合軍を編成してソドムを含めたガナアン地の五つ同盟国を攻撃しました。ケダラオメル連合軍が勝利してソドムとゴモラのすべての財物を奪取してその所に住んでいる人々を虜に捕えて連れ行きました。その虜の中にアブラハムの甥ロトと彼の家族たちが含まれました。この消息をきいたアブラハム座視することができなかつたです。アブラハム家で育てた318人の訓練された壮丁を導いて遠くタンまで追撃しました。兵力を分けて夜間不意打ちを敢行してケダラオメル連合軍を撃破しました。アブラハムすべての財物を取り戻したし虜を救出しました。もちろんロトと彼の家族たちも救出しました。九死一生で逃避したソドム王がアブラハムに言うのを“人は私に送って物品はあなたが持ちます。”しました。慣例によってアブラハムが戦利品を所有することができました。しかしアブラハムはこれをあきらめました。アブラハムがそのように処身した理由は彼がソドム王によって富裕になったという話をきく願わないからであると明らかにしました。しかし根源的な理由があります。それは神様の約束のお言葉が彼にあったからです。“わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。”と言ったお言葉です。アブラハムにはこのお言葉よりもっと大きい価値を持った財物がなかつたです。だからこのように余裕のあって堂々な処身をするようになったのです。アブラハムのように聖徒の皆さんは聖書に記録された神様のお言葉を最上最高の資産に思ってください。

イエスキリストにあって得る永生は何より貴重なものです。

“自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか”(マタイによる福音書16:25,26) このお言葉はイエスキリストが親しくおっしゃったお言葉です。

ここで‘命’と翻訳された原語は‘靈魂’という意味もあります。だから肉体に係る生命と靈魂に係る生命で対照して説明すればその意味が鮮かに現われます。“誰でも自分の肉体の生命に最高の価値と比重を置けば靈魂が滅亡するようになるはずで、イエス様を信じることに最高の価値と比重を置けば永生を得るようになるでしょう。人がもしすべてを得てからも自分の命を失えばそのすべてが自分に無用の物のように、この世で長く暮すと言っても自分の靈魂が滅亡するようになったらその長寿は意味がなくなる。”このように解釈することができます。永生を得た人は天国で永遠に神様とともに暮すようになります。だから永生を得ることがどの何よりも優先順位でこの世で何と比べることができない価値を持ったのです。イエスキリストがおっしゃった‘畑に隠れてある宝’の比喩と‘極めて貴い真珠’の比喩はその事実を非常に明らかに現わしています。“天国は、畑に隠してある宝のようなものである。人がそれを見つけると隠しておき、喜びのあまり、行って持ち物をみな売りはらい、そしてその畑を買うのである。また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。”(マタイによる福音書, 13:44~46)でおっしゃいました。この二つの比喩は私たちが持たなければならない価値観と価値判断の優先順位を明確にさせてくれます。

畑に隠された宝の比喩は案外に宝を見つけるようになった人に関する話です。地を借りて耕作している途中偶然に主人がない宝を見つけて儲け物をする仕事があります。それでは宝を見た人は自分の財産を売ってその地を買い入れます。良い真珠を得るために労力して通う商人が極めて貴い真珠に会えば自分の所有を売り切ってもその真珠を持ちます。畑に隠された宝を見つけた人と貴い真珠に会った商人がそれを得るために自分のすべてのものを売ったということは今まで貴重に思ったことをあきらめて捨てたことを言います。このように天国の価値を思えば天国をくださった神様を仕える事にどんな犠牲を支払っても惜しくないです。全天下のすべてを得てからも永生を得ることができない人は不幸な人です。天国に入ることができなければ彼の得たものなどが究極的には無益で無意味です。神様が約束したお言葉にかなうすべてのものが価値のあるのです。どんな思想や教訓も神様のお言葉に配置されることは無価値なのです。

愛する聖徒の皆さんは神様の口約束とイエスキリストにあって得る永生を他の何よりも貴重にする価値観を持ってまたこれを価値判断をするのに優先順位になるように願います。